はじめに

平成 24 年度（2012 年）の札幌市衛生研究所年報第 40 号をお届けします。

当衛生研究所は、札幌市を流れる豊平川の右岸に位置しており、4 階建ての屋上からは、市街中心部にある「さっぽろテレビ塔」がよく見えます。当衛生研究所が札幌市衛生試験所として発足したのが昭和 37 年（1962 年）で、「東京タワー」とほぼ同時期に建てられた「さっぽろテレビ塔」が完成した 4 年後のことで、今年で 51 年目を迎えます。この間先輩たちのご尽力、ご努力により、たくさんの知識、経験が蓄積されてきましたが、これらの財産を基に、さらに発展すべく 40 人の職員一同、精一杯頑張っているところです。

平成 24 年度（2012 年）の出来事を書き記してみると、まずはｉＰＳ細胞（人工多能性幹細胞）を作製した京都大の山中伸弥教授にノーベル生理学・医学賞が贈られたことは、科学を研究している我々にとって感慨無量でありました。また、高さ 634 メートルを誇る「東京スカイツリー」が開業し、日本を代表する新しいランドマークとなりました。

この「東京スカイツリー」の完成は、日本の高度成長期の象徴的な存在であった「東京タワー」が、電波塔の役割を「東京スカイツリー」に譲ることに代表されるように、これまで培われてきた経験やノウハウが団塊の世代の人たちから次の世代に、あらゆる分野でバトンタッチが行われているような、そんな世相を感じとることができます。

一方、当衛生研究所では、市内の食品会社が製造した白菜の漬物を原因食品とする 8 人が死亡するという市内では前例のない腸管出血性大腸菌Ｏ157 による食中毒事件があり、その検査対応に追われたことが最大の出来事だったといえます。

また、この食中毒に伴う検査と同時期に、ほかの感染症関連の検査を多数実施する必要があったことから、夏場の短期間に膨大な検体数の検査を行うことになりました。特にこれらの検査にあたっては、被害の拡大を阻止するために検査の迅速性、正確性が強く求められるわけですが、日頃からの検査技術の研鑽や保健所との連携などにより乗り切ることができたもの考えております。

さらに、この夏場の時期は、福島原子力発電所の事故を受けた国内の原子力発電所の運転停止に伴い、計画停電の対応を想定した業務体制の見直しや節電が余儀なくされたため、検査や研究の調整に苦労があったのも世相を反映したできごとだったと思います。

今のところ「さっぽろテレビ塔」は建替えの計画はないようですが、当衛生研究所では、経験や技術を新しい世代へ円滑に継承するとともに、様々な危機に対して常に的確に対応できるように研鑽を積み重ねて、市民が安心・安全に暮らせるよう、負託に応えていきたいと考えております。

本年報をご高覧のうえ、お気づきの点があればご教授のほどよろしくお願いします。

2013 年 12 月　札幌市衛生研究所長　　宮田　淳